日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成12年2月16日
第21号

立教開宗七百五十年を前にして
門下連合会の結束と発展

リレー提言⑪

京都日蓮聖人門下連合会理事長　杉若恵隆（平成十一年度）

日蓮聖人門下連合会結成四十周年の歴史は、今時その門下の一役を背負うのに責任の重みを感ずる一人である。それだけに、結成にいたるまでの門下連合会各宗各派の先師先聖の御苦労と輝かしき四十年の歩みをここに実現したものは、偉大な力の結集として頭下がる思いである。今や宗祖日蓮聖人立教開宗七百五十年という嘉辰を前に一層の門下連合会の存在は、その門連たるゆえんから格別重要であり各宗各派のその意義を生かすべく御推進されていることであり、各宗各派の歩みには夫々大同小異があろうと、わが門下連合会を軸に、宗祖、門祖、縁祖の流れを汲むものとして意義教義の深淵を知り、その淵源を極めて先師先聖の行履と息づかいを体解して、この上もない感動に触れ合うことに震感するものである。一人一人門下のこのような体得は、大きな力となり、更なる各宗各派の力となり、発展につながるのではなかろうかと思う。

各宗各派の集まりである門下連合会の力ともなり、日蓮聖人の理想を実現することになろうと思う。各宗各派の理想の実現は、門下連合会の理想の実現とも云えることであるだけに、門下連合会においては大いに理想実現のためにも、百論百出の多角多面の御高見を拝聴する場として期待しているものである。十分熱論し門連の通念は、申し上げるまでもなく異口同音、南無妙法蓮華経の確固たるお題目の広宣流布の大願にあるのである。お題目は氷海凍土を進む氷解船の如く、また、あいまいな日本人に独得な宗教人口の偏りに突きすすむが如く、また闇の中にさまようものの依りどころとする灯火の如く、濕木より火出ずる如き強いものを現代は求めているのである。理想実現は行学ともに昼夜精進することにある。日蓮聖人の境涯を十分咀嚼し、不惜身命にしてその境涯に少しでも到ろうとする心がけをしなければならない。南無妙法蓮華経の玄題旗の下に、門下連合会各宗各派「一に帰す」という根幹は、共通の課題であり共通の悦びでなくてはならないと思う。小衲は日蓮宗僧侶として、各宗各派の門下連合会席上において、各理事、各聖の御高見、高邁な識見、理念の交換にいつも感動し、各宗各派の夫々の立場、事情を超えての交わりは一つ一つ門下連合会の成果として歓迎するものであり感謝しているものである。門下連合会各宗各派は相互の縁情と各宗興隆の双方の折り合いと法華経を所依とする最大の機関であり、また相互に提携しなければならぬことは、現代では必須欠くべからざるものと痛感するものである。今日までの日蓮聖人門下連合会の結成は、それは組織・運営・事業において並々ならぬことであったことを忘れてはならない。既に門下連合会各宗各派の教義、伝統と宗風は、相互理解のもとに努力協調して、祖意祖願の実現に苦慮の上、今日の門下連合会の存在があるのである。

斯くして全国門下連合結成四十年、京都門下連合会五十年の基盤は、今日まで夫々の歴史的年次をひもといて歴然たるものである。

例年かわることなく門下連合会の運営に就いては、定例理事会・総会・京都理事会との懇談会等々、確実に開催され門連の行事をすすめられ、提案議事に就いては真剣にとり組まれ、慎重審議にして、厳粛に論議されていることも、まことに堅実である。門下連合会があるならばこそ、大きく慈悲光導の祖意祖風に浴する感がいたすものである。流石、日蓮大聖人の在世上行再証の覚醒は吾らその教風にたすけられ各宗各派に法脈相承されていると思うこと屢々である。一同にその思いは将に水魚のおもいにして親懇の情深まりて今や、和気あいあいとして門連の歩みも「天地晴明」の聖訓を体解するところである。門下連合会十一教団の相互研鑽は、益々和みの中に厳しい現実を踏まえて、自尊毀他、或は論議の消長曲折、または各宗派的な独自性の強調もなく異体同心の御聖文の厳戒を身にして、勇猛心をもって推進をはからねばなりません。この門下連合会こそ日蓮大聖人の膝下として「異体異心の者これあらば例せば……」の聖訓は身も心も片時も忘れてはならぬことである。門下連合会は、大いに各門連の各聖の注目するところであり、各宗各派の身内的事情もさることながら、大きな門連下の指導理念を相互に研鑽に研鑽を重ね、法華経を唯一の依所とする日蓮教団の世に結束して積極的に布教伝道に努めなければならぬ時であります。一般世間は、政治・経済・教育に失望し、混迷にあるとき、この法華経を信行するもの唯一の答えを、世のニーズに応えていかねばならないことは、熟知のことである。各宗、各派の事業を他山の賑わいとみなさず、門下連合会のすぐれた指導内容を希求し期待するところ大であると思う。

門下連合会の事業も過去四十年の歩みの中に積極的に遺憾なく克服され、数々の成果を挙げられてきました。例えば、「国柱会提案、立正安国論献諫七〇〇年記念中央大会」前身「日蓮聖人門下懇談会から日蓮聖人門下連合会に改組」「日蓮聖人伊豆法難七百年記念事業」「創価学会対策」「全日仏への抗議に対する回答解決」従って「日蓮大聖人門下連合会大講演会於日比谷公会堂に成功裡に開催」。「日蓮聖人遠忌事業」「日蓮聖人展、聖伝劇、オラトリオ日蓮聖人の制作、青年の船、サイパン、グアム島慰霊巡拝」。「日蓮聖人門下連合会結成二十五周年記念大会先師追悼法要」「『門連だより』発刊」「日蓮聖人門下連合会主宰叡山開創一二〇〇年記念法要執行」「大阪日蓮聖人門下懇話会・北海道門下連合会」「門下連合会結成二十五周年記念大会」「三十年のあゆみ」の刊行。

上述した如く、過去門下連合会結成以来、実に着々と運営・事業・行事等この礎ともなる精神的、門連的財産ともいえる史実に敬服せざるを得ず、頭の下る思いである。

と同時に今、年々継続議題である門下連合会、立教開宗七百五十年記念事業も斯く上の実績からして継続課題の「大衆法華文化展」の開催の実現は不可能ではないと信ずるものである。

平成十四年には立教開宗記念事業の門連の目ざすものは、各聖の意見も十分発表されているところでありますが、何かぎくしゃくしているものは尚早に解消し、積極的に同調できるものは同調して、仏教教団の中の日蓮聖人門下連合会の宗風宣揚に御協力願いたいものである。

蓮から連に！『蓮華の水に在るが如し』

さて、わが京都日蓮聖人門下連合会の実態と京都門下連合会各宗各派の結束、また各派貫首猊下各山各聖の門連の活動、行事、運営に就いて御理解深く積極的御指導、御協力を賜わっていることは大きな要因である。京門連が円満に協調しあえるも十六本山各末寺、旧縁末挙げて京都門下連合会の各事業「宗祖日蓮聖人降誕会」「立教開宗会」「夏期大学」「宗祖入滅報恩会式」の四大行事の執行奉修につとめる門下各聖の出仕奉仕に積極的な活動も大いによろこばしきことである。しかしながら、各山各寺において必ずしも容易な場合だけでなく、種々の事情を克服し、一山の一ケ寺の蓮門の名誉と京洛にそびゆる法華の大堂の歴史を背負う現今の状勢に毅然として存続し、寺運にかけ、わが門下連合の絆と契りは強く、「苦を労わり、辛さを抱き」ながらも法燈消ゆることなく、仏日増々輝き、都塵を払い、都心に響く大太鼓は、デジタルな時計以上に日々心に刻まれつづけられてゆくのである。市民の心にお題目の鼓動すべてをはたらかしめているのである。各会員諸師の為宗為法の賜である。

より聖祖のもとに、より連なる合掌へ

わが京都門下連合会参加寺院十六本山はじめ、百八十ケ寺の多数をいただき、会長・理事長・理事・参与・事務局を擁し、日蓮宗・法華宗の各教師各聖挙げて、隔年輪番で運営をはかり、推進しているのであり、まさに相互事情を理解し、協力し合いうるわしき団体であり、不軽の精神と敬い合い健全なさわやかさが京都門下連合会の印象であろう。

外には、トルコ及び台湾の相続く大地震大惨事と被災者への救済に本会の活動として、救援の提唱に早速その旨を関係機関を通じて御見舞をしたのである。また市内、身体不自由者授産工場の働らく上に十分でなき人達へのはげましも続けている。

幸にして各御本山の貫首猊下の御染筆の色紙も、門連行事、参詣者への抽せんで手にされる信者の歓喜法悦の様、光景も京都門下連合会の彩るところである。各宗各派の信者檀徒のあつまりは、まさに「一華五葉に開く」感である。益々の檀信徒の京門連の行事に参加する数の多きをみるのである。仏祖宗派、仏意祖意はわが出家そのもの自身の命々脈々たるものを檀信徒教化していく宗門連的使命を自覚し、未来際にいたる光りつづけていかねばならない。

夢・三万六千五百日

ときに、「二〇〇〇年」と謂う。あくまでも西暦であるが、仏滅二九五〇年。皇紀二六六〇年、祖滅七一九年、立教開宗七四八年、わが齢七〇年。われらの五官六感を通じて、やたらに数字を刻み入れられる。「慶祝二〇〇〇年」も、何とも止めることなくつづく。この年この積年、宿願は何であったか、静観するときを与えられた。前記いたした、「夢・三万六千五百日」は、たった百年間のことである。おもえば明治三十四年より平成十二年の間である。この過ぎ去りし百年間に何が起り、何が生じ、何が変わり、何を与えられたか、考えたり想うと恐ろしきことのみ残るこの近代の反省とざんげに表白する。常に娑婆即寂光土、浄仏国顕現のわが法華経門徒の立正安国の誓いも、空しさを覚ゆるものは小衲のみだろ

（2面へつづく↓）

従地湧出

◆一九九九年七の月、恐怖の大王が舞い降りることもなく、めでたく西暦二〇〇〇年が明けた。平成十一年十一月十一日には、語呂合わせの乗車券や、郵便消印目当てに駅や郵便局にマニアが押し寄せた。そして西暦二〇〇〇年を「ミレニアム」と称して、マスコミを通じて商業活動も盛んである。◆古より人類は数字を霊的なものと考え、宗教の中にも取り込んできた。東洋では「四」を「死」と読み、西洋ではイエスの命日である「十三」を忌み嫌う。「八」は末広がりで縁起がいい。その反面「四苦八苦」と言う。「七」はラッキーセブンだが、「七転八倒」「七転び八起き」とも言う。「三」は仏教でも「三宝」「三界」「一念三千」など、大変重要な語句を意味する数だ。◆来る平成十四年の宗祖日蓮大聖人立教開宗七五〇年を西暦二〇〇〇年同様のお祭り騒ぎで終わらせてしまってはいけない。昭和五十六年の宗祖七〇〇遠忌の「青年の船」「日蓮聖人劇」「オラトリオ」等の成功は、宗派を超えた青年層を中心にした情熱の結集がなければ語ることはできない。「燃え立つ計り思えども遠ざかりぬれば捨る心あり水の如くと申はいつも退せず信ずるなり」（上野殿御返事）立教開宗七五〇年は、門下連合会を結成した意義を、もう一度再確認する機会にしなければならない。◆「一致・勝劣」「摂受・折伏」「祖師信仰の是非」…。一口に日蓮聖人門下と言っても、各宗の教義は様々。それぞれの歴史の中で培ってきたものがある。我々の共通項はただ一つ。「日蓮が慈悲広大ならば南無妙法蓮華経は万年の外未来迄も流布るべし」（報恩抄）日蓮聖人の慈悲のお心にすがり、お題目を信じ持ち広めること。「異體同心なれば萬事を成ず」（異體同心事）もう一度七〇〇遠忌の原点に返り、青年層の結束と行動を。

（顕）

（1面よりつづく）

うか。

明治三十四年より今日の百年。否、明治のはじめ大政奉還より国体、近代化への急発進は、世界に雄飛し、発展もあり、科学・文明・教育・経済も事態が変遷したことは、この百年の間は老若男女、現存の少なくとも人口五〇パーセント以上の人々は記憶にあり、忘れられないおもいの人が多いことだろう。

門下連合会の歴史は、三十年四十年五十年と経てまいる中で、わが門連の流れは、不動に不退転の歩みに悔いを残してはならない。

過去百年間三万六千五百日の間、地球上、洋の東西にかかわらず、戦災・人災・地球の温暖化にいたる生きとし生けるもの、恐怖・不安は絶ゆることがない。思想信条の或は世の世相の生ずる進歩も発展もあるかもわからない。過去をひろい出すと際限ないが、百年の実体験の貧困と悲惨は、戦争によるものであるとすれば、わが門下連合は宗祖日蓮聖人の祖願を未来今日からの百年を如何に不安と恐怖をとりはらい、利益、安泰をはからう大慈悲を世間衆生にはたらきかけねばならぬことと勇猛心をもって化導しなければならない事態にいたっていることを、まず殉教的な心がまえをもたねばならない。今、法華経の門流の信者のみならず、末信徒の渇望するところである。世の動き息づかい、むせぶ、もがき苦しみ、あせりを察知する深い智恵の光りを与えなければならない。過去百年の暗い歴史の貴重な資料を糧に、立教開宗七百五十年の嘉辰を前に未来百年は、立正安国論をひるがえし、真に生かしていかねばならないのが、立教開宗の意義と申すべく強い誓願を樹ち立てねばならない。またお題目は日蓮聖人十二年の「横川定光院から清澄へ」の歴史的事実を凝視し、未来百年の大計を真剣に考えていかねばならぬと思うのである。

清澄寺改宗五十周年記念法要

日蓮宗では、去年十月二十八日に千葉県安房郡天津小湊町の大本山清澄寺に於きまして、真言宗より、日蓮宗への改宗五十周年を祝す記念宗門法要を奉行致しました。

清澄寺は今を去る七百六十二年前に日蓮大聖人が出家得度され、更に御年三十二歳の建長五年四月二十八日に力強く立教開宗された霊跡です。大聖人が道善坊に師事され勉学に励まれた当時は、天台宗の寺院でありましたが、安房館山の出身であり京都智積院の学僧であります仲恩房頼勢上人が徳川家康より朱印五百石、格式十万石を与えられて清澄寺に晋山して以来法脈を真言宗と定め、以降お題目の法鼓は清澄寺の境内に一歩たりとも入ることを許されぬまま近年に至りました。

大本山清澄寺

その後明治維新、廃佛毀釈の嵐の中、清澄寺の権威は次第に薄れ、経済的にも厳しくなる中で、大正九年一月、第三十世玉瀧義秀僧正が法燈を継承されるや「日蓮聖人は宗教界の大偉人、宗派の如何を問はず尊崇すべき尊者」として寺門を開放し、特に四月二十七日、二十八日と十月二十七日、二十八日は日蓮宗に全山が開放され、四月は立教開宗会、十月は宗祖御会式として日蓮宗管長御親修の大法要が旭ヶ森を中心として奉行されることになりました。

この日蓮宗に対する全山開放に時の河合日辰管長は多いに感激されて旭ヶ森に日蓮大聖人の銅像建立を発願され、これに各大本山の貫首をはじめとして、東郷元帥、徳川家達といった名士が賛同協力され、大正十二年八月に建立円成致しました。

爾後全国より本宗檀信徒がこの霊跡に参詣され清澄寺は活況を呈することとなったわけであります。然し乍ら、時代が先の大戦へと向かう中で清澄寺の参詣者も減少し、所有山林の徴用や田畑の開放等により、一山の経営が危機に瀕して行きました。その中で玉瀧義秀僧正も御遷化され、昭和二十三年一月に岩村義運僧正が第三十一世の法燈を継承されたのであります。岩村住職のもと、檀徒中より清澄寺の経営危機を憂い、その寺門の興隆について真剣に協議する者がありました。その結果、郷土の偉人である日蓮大聖人を晴れて清澄寺にお迎えすること、即ち日蓮宗に「改宗」すること以外に途はないと心に決した当時の総代田中一郎氏をはじめとした檀徒の方々は、岩村住職にその胸中を披瀝し、それを受けた岩村住職は先師玉瀧義秀僧正の遺志をも思い合せて、改宗の英断を下され、昭和二十四年二月十六日、ついに改宗の大事が成就されたのです。

然しその陰には自らその機縁を作り、身を挺して艱難に耐えた幾多の人々がいたことも忘れてはならない史実であります。平成十四年には、日蓮大聖人が旭ヶ森で初めてお題目を唱え、高らかに立教開宗を宣言されてから七百五十年の佳節をお迎え致します。私達は「お題目から、はじまる」を合言葉に、日蓮大聖人のお心を自らの心として、一天四海、皆帰妙法の祖願達成に精進する誓いを新たにすることが肝要です。平成十四年の佳節に向けて門連加盟各団体のご参詣をお待ち申し上げます。

法華宗・真門流管長に就任して

総本山本隆寺貫首　吉田　日襄

去る九月十五日総本山本隆寺第百二世として、法燈を継承させて頂きました。

晋山式当日には、京都十六本山の御貫首方陣門土屋総長、及び随行の各聖に御来駕を忝けなくし、諸事万端滞りなく晋山を終えました事、誠に有難く深く感謝いたします。

今迄歩んで参りました宗門行政の道だけでなく、信仰の象徴としての立場で、教化善導して行くことに就きまして、つくづくと浅学不徳を感じております。

然し、私達には、法華経と言う最上の教えがあり、お題目という最上の良薬が授けられているのだ、と言う信念のもとに精進努力を重ねて参ります。

高祖日蓮大聖人がお題目によって宗門を開かれてより、やがて七百五十年、立教開宗七五〇と銘打って、門下連合会加盟の各宗派が、それぞれ計画立案され、盛大にお慶びの準備を進めておられます事は、本当に欣ばしく思います。

私達の宗門も幾つかの計画を立て、それぞれの部門で鋭意検討を重ねて準備を推進しております。

宗門としては小さなものですが、小さければ小さい乍らに、まとまった形のものを仕上げて行きたいと思っています。慶讃法要の日取も平成十四年四月五日、六日、七日の三日間と決定しております。

慶讃会役員、委員の皆様方に御尽力をお願いしている次第です。

最後に成りましたが、門下連合会の緊密な連携によって、益々の発展を祈って筆を置きます。

（略歴　教化部長、教学部長、総務部長、宗務総長二期、布教師養成所所長等を歴任）

日蓮宗第四十九代管長に藤井日光猊下

第四十八代日蓮宗管長　田中日淳猊下（八三）の管長職任期満了（十二月二十日）に伴い開催された管長推戴委員会は、次期管長に藤井日光身延山久遠寺法主猊下を全員一致で推戴した。

推戴の報告を受けた身延山久遠寺は、参与会を開き承諾、管長就任報告式が十二月二十一日、東京池上の宗務院で盛大に開かれた。

藤井法主猊下は、昨年二月身延山久遠寺第九十一世法主に選任され、五月にご入山式が盛大に行われた。管長就任期は四年。来る平成十四年に迎える立教開宗七五〇年に向けての活躍に期待が寄せられている。

「立教開宗750年」

信頼の輪をつなぎます。

日本旅行は、一人一人の夢をカタチにするために、夢を実現するための新しい旅をお届けします。旅づくりの経験によって培われた企画・発想力を生かし、21世紀に向けて積極的に取り組んでまいります。

日本旅行

祈 立教開宗七五〇年 奉讃円成

日蓮聖人門下連合会

（平成十一年十二月現在）

日蓮宗宗務院

〒146-8544
東京都大田区池上一―三二―一五
電話 〇三(三七五一)七一八一(代)
FAX 〇三(三七五一)七一八六

管長 藤井日光
宗務総長 永井祥文
宗務副総長 渡辺一之
綜合企画部長 加賀美泰全
庶務部長 小松浄慎
財務部長 篠原智高
教務部長 二宮將泰
護法伝道部長 上田尚正
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長 田澤元泰
現代宗教研究所所長 石川浩徳
国際開教室長 中條令紹
人権対策室長 前田幸廣
参与 堀江宏正
参与 浅井玄裕
日蓮宗新聞社社長 垣本孝精

法華宗（本門流）宗務院

〒170-0004
東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五(代)
FAX 〇三(三九一八)七九九四

管長 片山日楽
宗務総長 原井慈鳳
教化部長 圓成淳龍
教学部長 桃井晋城
財務部長 坂巻顕導
庶務部長 矢吹慈英

顕本法華宗宗務院

〒606-0015
京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

管長 吉永日晴
宗務総長 中山昭夫
宗務次長 山本学人
財務部長 白井謙光
教務部長 奥村智学
社会部長 鈴木無着
布教部長 阿曽久成
庶務部長 三坂岳応
主事 山本晃道
多門顕正
津村乗信
小松正学

法華宗（陣門流）宗務院

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

管長 竹嶋日香
宗務総長 土屋善敬
総務部長 都築哲信
教学部長 佐古弘文
教化部長 門谷東生
財務部長 八木恵岳

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る東竪町一一〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有 井上日慶
講尊 梶本日裔
宗務総長 小山日誠
宗務副総長 笹田日昌
宗務副総長 佐藤政司
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606-8362
京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

管長 嘉儀日有
宗務総長 高見正弘
総務部長 佐藤哲夫
財務部長 岩崎隆義
法務部長 教学部長 岩崎廣義

法華宗（真門流）宗務庁

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

管長 吉田日襄
宗務総長 斎藤隆彦
総務部長 上田浩岳
教学部長 辻本寛孝
教化部長 水野智啓
社会部長 木村完祥
財務部長 堀智泰

本門法華宗宗務院

〒602-8418
京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七

管長 松本日望
宗務総長 高邉信幸
宗務部長 信隆允忠
財務部長 増田隆雄
総務部長 藤井宏長
庶務部長 土畑信教
教務部長 音羽隆全
門連常任理事 持地光学

宗教法人

国柱会

〒132-0024
東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一(代)
FAX 〇三(三六五六)九九八〇

会長 田中暉丘
理事長 大橋邦正
門連理事 秋場善彌
門連理事 淀野寿夫

京都日蓮聖人門下連合会

京門連事務局
〒606-8376
京都市左京区二条通川端東入大菊町
日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
日蓮宗京都府第一部宗務所
電話 〇七五(七六二)二四一一
FAX 〇七五(七五二)九三三八

会長 松本日望
副会長 金山日龍
理事長 飯田信栄
副理事長 杉若恵隆

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812
東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話 〇四二(三七八)三三九五
FAX 〇四二(三七九)〇七四四

首座 塙行幸
長老 石山定光
長老 吉田行典
長老 酒迎天信
長老 今井行康
長老 西堀行施
長老 二宮和嘉
事務局長 今井行順

祈・立教開宗七五〇年　奉讃円成

（平成11年12月現在）

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
〒409-2593 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六(二)一〇一一
FAX 〇五五六(二)一〇九四
法主 藤井日光
総務 伊藤通明
役職員一同

日蓮宗大本山
池上本門寺
〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)二三三一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇
貫首 田中日淳
執事長 市川智康

顕本法華宗総本山
妙満寺
〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七
貫首 吉永日晴
総務 大川定信
執事 安東靖弘
執事 山本晃道
執事 津村乗信
執事 小松正学
執事 林孝瑞

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三一)〇〇〇八
貫首 竹嶋日香
執事長 真保行宣
執事 西山英仁
執事 鈴木顕正
執事 栗田孝之
執事 高橋俊二
執事 下間要一

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六
貫首 吉田日襄
執事長 笹木研秀
執事 矢放真文
執事 本多信正

本門法華宗大本山
妙蓮寺
〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七
貫首 松本日望
執事長 飯田信栄
役職員一同

日蓮本宗
本山要法寺
〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四
貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 高見正弘
執事 岩崎廣義

本門佛立宗本山
宥清寺
〒606-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一
住職 二十二世講有 井上日慶
事務局長 伊藤隆之

立教開宗出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
立教開宗七五〇年慶讃団参奉行
〒299-5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇(九四)〇五二五
別当 杉山日慎

日蓮宗大本山
妙顕寺
〒606-0005 京都市上京区寺ノ内通堀川東入
貫首 山田一光
執事長 原光司

宗祖御誕生霊場
日蓮宗大本山
誕生寺
〒299-5501 千葉県安房郡天津小湊町小湊一八三
電話 〇四七〇九(五)二六二一
貫首 石川日命

日興上人御廟所
日蓮宗大本山
富士山本門寺
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
FAX 〇五四四(五八)二五一七
貫首 本間日諄
執事長 井出教道

日蓮宗大本山
法華経寺
〒272-0813 千葉県市川市中山二―十一―一
電話 〇四七(三三四)三四三三
貫首 長瀬日還
執事長 渡辺貞観
参与 関観康
同 新井智清
同 植田観泰
同 広野観順
同 土田勝宏

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆　名勝巴の庭本阿弥光悦作
境内諸堂悉く京都府有形文化財指定
〒602-0061 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七
電話 〇七五(四四一)七九九七
FAX 〇七五(四四一)七九九七
貫首 金山日龍

やくよけ祖師
日蓮宗本山
堀之内妙法寺
〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一
山主 駒野日法

日蓮宗本山
頂妙寺
〒606-8376 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二
FAX 〇七五(七五一)一〇〇四
貫首 永田恵遠
参与 山田完修
同 新井智清
同 安藤信行
執事 藤井照源
同 川合陽雄
同 二之部知孝

門連時報

全門連京都理事会・懇談会 日蓮宗本山本満寺で開催

平成十一年十一月二十四日（水）、日蓮宗本山本満寺（伊丹日章貫首）で「全門連京都理事会・懇談会」が開催され、各本山貫首、門連理事、五十名が参加した。

午前十一時、「全門連常任理事会」が開催され、毎年春の身延祖廟参詣・理事会の参加費を二万五千円から三万円に増額することなどが決議された。

午後一時、「法味言上・先師法要」、引き続き本堂前にて記念写真。二時から伊丹日章猊下の講演「本満寺の沿革について」を拝聴した。開山上人以来の近衛家との関係を中心に、山中鹿之助や鴻池家の信仰、さらに中世日蓮宗の動向がよく分かるものであった。

引き続き、二時半から「理事会・懇談会」。生駒幹事司会のもとに全員の自己紹介、永井祥文理事長を座長に議事を進行した。まず生駒師より全門連上半期事業の経過報告。杉若恵隆（日蓮宗）京門連理事長による「京都門下連合会」の活動報告。山下通雄師（本門法華宗）による「大阪日蓮聖人門下懇話会」の行事報告。

続いて懸案である立教開宗七百五十年慶讃事業としての「日蓮聖人門下　法華文化展（仮称）」について討議されたが、依然進歩が見られない。その上、国立博物館の「財団法人化」の問題が提起された。それによると、文化事業なら赤字でも開催可能とした事前の予想に反し、財団法人になれば国庫の補助が減るため、ますます「客の呼べる」「営利的」な展示物が要求されることとなろう。全門連側が信仰者の立場で紹介したい文物とは相容れないものとなる可能性が高くなった。そのため「準備委員会」と国立博物館側の担当者との「面談」がぜひとも必要であるとの見解に達した。開催するにも、中止するにもぎりぎりのタイミングであるだけにその動向が注目される。

理事会終了後、第二会場の「竹茂楼」に移動し、伝統芸能の京舞を鑑賞した後、会員相互の親睦を深めた。

日蓮聖人門下連合会京都理事会（平成11年11月24日、於：本満寺）

理事会・懇談会

京都門連夏季大学開催

京都日蓮聖人門下連合会（杉若恵隆理事長）は、八月二十四日（火）、本能寺文化会館で、『第三十六回夏季大学』を開催した（京都門下本山会協賛）。参加者は百二十余名。テーマは「二十一世紀に向けての法華信仰の展開　日蓮聖人と共に語る」。十時開講式、十時半から第一講。講師は本山頂妙寺貫首・永田恵遠猊下。講題は「日蓮聖人の心」。この日の基調講演として、「三大誓願・立正安国」という、「世界全体に対して責任感を持つ生き方の典型」としての日蓮聖人像を提示された。

昼食をはさんで、十二時半から第二講。講師は立正大学経済学部教授の福岡克也先生。講題は「地球環境の再生と仏教の役割」。「仏教の教えとそれに基づいた生活＝『正命』は、もともと非常に『エコロジカル』であること。現在の、資源の浪費を前提とした物質文明の対局にある思想であること。さらには劣化した地球環境の『再生』に貢献する思想でもあること。それが『国土成仏』につながる」と説明された。

第三講、講師はニュースキャスター・仏教大学講師の山口進先生。講題は「信仰・説得・話し方あれこれ」、講師は長年、巧みな話術を以て報道に携わって来られた。それを信仰者の場合は説教に応用してもらえればうれしいとのことであった。「同じことを説明するのでも、書き言葉ではなく話し言葉の表現では『絵になる言葉・視覚的な言葉・より具体的なイメージを与える言葉』を選ぶ努力、使う努力が大事。決して抽象的な言葉で『逃げ』てはいけない」と教えられた。

第七一八回京都門下連合合同御会式開催

京都門下連合会と後援の京都門下本山会は、平成十一年十月二日（土）、京都山科の日蓮宗大本山本圀寺に於いて「第七百十八回京門連合同日蓮大聖人御報恩御会式」を開催した。

午後十二時五十分、門下青年会と門下有志による「行脚隊」と三田市妙三寺（吉田宏遠住職・本圀寺総務）の「万灯隊」が山科護国寺に集合、本堂前での法味言上の後、まず「行脚隊」が先触れとして出発。少し間をおいて午後一時十五分、「万灯隊」が出発。三条通りの約一㎞余りを練り歩いた。関西では珍しい光景に、道行く人々も興味深げに見つめていた。二時、本圀寺の本堂前に到着して万灯の『お練り』を供養した。

二時半から、本圀寺貫首、久村日鑒猊下を大導師、京門連理事長杉若恵隆（日蓮宗京一宗務所長）師、同副理事長桃井晋城（法華宗本門流）師の両氏を脇導師、京都各本山貫首猊下御臨席のもと、「報恩法要」が厳修された。

三時十五分から、大本山本能寺貫首、赤田日崇（法華宗本門流）猊下の法話。講題は「主師親の三徳に報ず」。我が子に保険を掛けて殺すような事件の出現に、「一切衆生の尊敬すべきもの」であるべき主・師・親が、現代では自らもその責任を認識せず役割を放棄していること。そのせいで下の者からもいかに軽く扱われているかを憂え、正法を以て濁世を正すことの必要性を説かれた。

『法華経の虚空会説法 ―起顕竟法門―』 増田日紘猊下著

本門法華宗では立教開宗七百五十年奉讃記念として、増田日紘大本山妙蓮寺元貫首執筆の『法華経の虚空会説法』が出版された。日蓮聖人独自の法華経観であり、「法華経の中にも迹門はせすぎて、宝塔品より事おこりて寿量品に説き顕し、神力品屬累に事極りて候し」『新尼御前御返事』に基づく、「起顕竟」法門に着目し、この付嘱の要法の依処である法華経説法の「二処三会」の中、宗旨に関連する法華経の説処と説会を通し、本門説法の会処である虚空会に焦点をあて、八品下種の要諦を解明した内容である。迹門最後の法師品に説かれる滅後における法華経弘通の基本的、実践的な態度を前提とし、日蓮聖人が「起顕竟」の法門を立てられて、法華経の末法為正を鮮明にされ、法華経信仰に生きられた死身弘法の意に、開祖日隆聖人の判釈を重ね合わせている。立教開宗七五〇年の意義を改めて、門下に問い、覚醒を促す貴重な書である。定価二万円。申込は、本門法華宗宗務院内立教開宗七五〇年奉讃会（電話075・451・3527）まで。

門下連合会役員人事の異動について

就任　顧問　片山日楽

退任　顧問　松井日俊

日蓮宗新聞社の本

表示の価格は本体価格です／送料実費

仏跡ガイドブック
法華経を手にブッダの故郷へ
三友量順著／B6判　本体一五〇〇円
お釈迦さまの生涯にそってインドの八大仏跡をたずねる旅案内。図版一八〇点、仏跡地図付。

さだるま新書 No14
ブッダの国の法華経
三友量順著／新書判　本体八二〇円
法華経二十八品それぞれを、お釈迦さまの生きた時代の視点で故事を交えながら読む好著。

さだるま新書 No12 13
法華経講義 上・下巻
勝呂信静著／新書判　各八二六円（本体）

妙法蓮華経写経セット
方便品／寿量品（偈）／神力品（偈）／普門品（観音偈）
▼手引書・用紙セット・紙罫付　三八〇〇円（本体）

一部経〈法華経八巻二十八品〉
八寸本　三八〇〇〇円／六寸本　三三〇〇〇円
乾坤二巻本　二〇〇〇〇円／巻子本　五〇〇〇〇円

要品〈法華経の主要な経文〉五〇〇〇円

●お申込みは電話か葉書で当社まで
※代金は商品と一緒に振込用紙を同封しますのでお近くの郵便局か銀行口座へお振込ください。

〒一四六―〇〇八二 東京都大田区池上七―二十三―三
電話　〇三―三七五五―五二七一
FAX　〇三―三七五三―七〇二八

各派・教団 短信

法華宗陣門流

◇9月9日・10日、法華宗中央行学講習会が、千葉勝浦にて開催された。第一日目第一講義は立正大学伊藤瑞叡先生で、演題は「立正安国の学としての宗教地政学より見たる四大格言の現代的意義」であった。第二講義は、鷲津別院本興寺山主、鈴木日艸師で、演題は「檀林史攷」であった。二日目は、法華宗本門流・大本山鷲山寺、日蓮宗・本山正法寺、各寺を参詣し、日蓮宗・本山本土寺にて閉校式となった。

◇11月13・14日、三宗統合協議会・後期「統合学院学生講座」が、法華真門流当番宗の元、法華宗陣門流宗務院にて開催された。講師は両日共に、法華宗真門流宗学研究所所員、吉田公明先生であった。

◇12月6日、総本山本成寺に於いて、本堂屋根堂板葺替え工事の「上棟鬼上げ式」が厳修された。同工事は、昨年来計画され、法華宗各寺院並びに檀信徒、広く一般の方々に勧募を募り行われているものである。その工事の上棟式と鬼瓦が上がる鬼上げ式が執り行われた。当日は、朝からの雨模様にも係わらず、多くの参詣者が境内にあふれ、午後三時の法要が始まると降り続いた雨もやみ、竹嶋日香猊下御導師の元、法要が厳修された。法要終了後には餅撒きが行われ、屋根の上から撒かれた餅を参詣者はうれしそうに持ち帰られた。

（今井満良・松吉慶憲）

本門法華宗

◇10月12・13日大本山妙蓮寺では、宗祖日蓮大菩薩御会式報恩法要が奉修された。12日逮夜法要には、万灯一斉点灯・奉納音楽が行なわれた。

◇11月12日、大本山妙蓮寺では、本山三大会の一つ、御開山日像菩薩御報恩法要並に日慶・日忠・日応二人三師会並に歴代上人年忌法要が奉修された。

◇立教開宗七百五十年奉讃会記念事業の一環として、増田日紘猊下（大阪市久本寺閑居・元本門法華宗管長、大本山妙蓮寺第百世貫首）が執筆された『法華経の虚空会説法』が丸三ケ年の時を費やし出版された。同書の出版記念祝賀会が9月27日大阪ホテル阪急インターナショナルで開催され、出版記念祝賀会発起人である奉讃会総裁松本日望猊下以下宗門関係者多数が参列した。

◇本門法華宗学院では、9月8・9日及び11月25・26日、第91・92回教学講習会が開催された。於大本山妙蓮寺卯木講堂。

◇本門法華宗学院内（仮称）教学研究会では9月7日第1回「研究生との対話の会」が大本山妙蓮寺卯木講堂で開催され、今後の同研究会について意見交換が行なわれた。尚教学研究会ホームページがインターネット上で試験運営が行われている。

（木村光正）

法華宗本門流

◇管長・松井日俊猊下の辞任により平成11年11月14日付をもって新しく片山日楽猊下（大本山光長寺貫首）が管長に推戴された。これに伴い門下連合会顧問に就任した。

◇大本山本興寺貫首・松井日俊猊下が健康上の理由により辞任。選挙の結果、貫名日諦師（岡山県本蓮寺住職）が当選し、平成11年12月28日付をもって就任した。晋山式は2月13日奉修の予定。

◇法華宗教学研究所編集による『桂林学叢』第17号（研究所創立30周年記念号＝論文八篇掲載）が出版された。頒価三〇〇〇円、注文申込みは宗務院まで。

◇宗祖・門祖の御曼荼羅御本尊を含む宝物四〇点、および宗祖・門祖の霊跡等六点につき、それぞれ宗宝または宗門史跡の指定（平成11・12・8）を行った。

◇古来、日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた「興隆学林専門学校」（尼崎・大本山本興寺内）の平成12年度新入生募集中。

（中道善信）

本門佛立宗

◇お祖師様の祥月御命日の三日前に当たる去る10月10日、本山・宥清寺では高祖日蓮大菩薩御正当御会式が四座にわたり奉修された。第三座では宗門式典があったほか、高祖会前日の9日には、本山開導聖人御尊前で平成11年度の叙任式が執り行われ権大僧正一師・権僧正八師・上座講師八師に対し、御講有上人よりの叙任の辞令下附式と御礼言上式が厳修された。

◇宗務本庁・七五〇特別局では、立教開宗七五〇年の報恩行事の先陣となる、『佛立青少年大会』（今津町佛立研修センター第一研修館を会場。平成12年8月26、27日開催予定。）の第一回実行委員会全体会議を去る10月27日に開催した。大会の基本プログラム案・会場のレイアウト等の報告が行われた。

◇平成12年の「七五〇全国青少年大会」に向けて、本年は各支庁ごとにプレ大会が開催されている。第二支庁（北大阪布教区）では9月15日に本成寺を会場として、第三支庁では8月21、22日に岐阜県金山町の「飛騨金山の森」を会場に、第四支庁（神奈川布教区）では9月26日に小田原市「いこいの森」を会場に、第十一支庁では8月22日に神戸市フルーツフラワーパークを会場として等々、全国から報告がなされており、どの大会も定数を超える多くの青少年が参加し、来年今津での「青少年大会」の大きな弾みとなっている。

（前島照力）

日蓮宗

◇身延山興隆発展の基礎を築き、宗門の発展に尽くした第十一世法主・行学院日朝上人の第五百遠忌法要が6月23日と25日に身延山久遠寺で、24日には東谷にある日朝上人開山、ご遷化の霊跡・覚林坊朝師堂でそれぞれ藤井日光法主猊下を導師に営まれた。

◇54回目の終戦記念日にあたる8月15日に千鳥ケ淵戦没者墓苑において、日蓮宗による「第55回忌戦没者追善並びに世界立正平和祈願法要」が行われ、僧侶・檀信徒約二百人が参列し、犠牲者に香を捧げ、世界平和を新たに誓い合った。昭和34年、戦没者墓苑が建てられてから法要は続けられ、今年で四十一回目になる。

◇自・自・公の連立政権発足への批判が高まる中、9月7日、日蓮宗は自由民主党に対して、創価学会を母体とする公明党との連立をやめるよう、小渕恵三自民党総裁に要望書を提出した。要望の後、小松浄慎庶務部長は「宗教団体がバックにつく政党が国政に関与していく事態は許されるべきではない。また、自民党支持団体の中には反創価学会の立場を表明する宗教団体もあり、連立はそのような支持者への背信」と述べ、今後も反対の姿勢を崩さない方針を明らかにした。

◇日蓮聖人が出家得度し、立教開宗した霊跡・清澄寺で10月28日、清澄寺改宗50周年記念法要が行われ、永井祥文宗務総長をはじめ約六百人が参列した。

（金子和正）

国柱会

◇全国各地方連合局で研修会、儀典講習会、婦人の集い等を開催。6月26日～27日、講師補任用試験。

◇7月23日～25日、第47回国柱会少年少女夏期学校。24日～25日、国柱会講師補任用講習会。

◇8月、近畿地方、山陽・四国・九州地方でも、国柱会少年少女夏期学校開校。21日～22日、大阪で「近畿青年の集い」

◇9月5日、「申孝園の集い」（婦人部の集い）。12日、国柱会講師による、日蓮主義研究発表会。25日～26日、式士任用試験。

◇10月2日～3日、身延大祖廟輪番給仕第35回国柱会奉仕団。御門下を代表し田中暉丘会長を団長に昼夜不断の唱題給仕。12日、池上本門寺で恒例の屋外宣伝。22日～24日、国柱会全国会員宮崎大会。国体開顕の意義を学ぶ。

◇11月3日、明治神宮参拝。近畿連合局は桃山御陵参拝。14日定例協議員会。新年度の事業計画等を審議。16日～17日、恩師田中智学先生第61回忌報恩大会。

◇12月4日、国柱会講師による日蓮主義研究発表会。5日、田中芳谷先生第27回忌追善法会。田中智学先生創作の思想劇「函谷関」の脚本を記念出版。（定価二、〇〇〇円）

（田中良則）

顕本法華宗

◇8月25日～9月8日、15日に亘り妙塔大学林の本科、研修科の二学年を京都総本山妙満寺で開講。全国より学僧が集まり、行学二道の研鑽に励んだ。

◇10月12日、総本山妙満寺に於いて本年度新任住職の奉誓式挙行。翌13日総本山御会式厳修。

◇10月15日、東京品川の別格山天妙國寺において顕青会（東部青年会）と什青会（西部青年会）の交流会を開催。御会式逮夜法要の後、多数の檀信徒と共に、池上方面まで唱題行脚。

◇10月19日～20日、東部連合会主催の研修親睦旅行開催。身延山久遠寺本堂・御廟所参拝、焼津にて一泊。有意義な旅行で親睦を図った。

◇11月17日～18日、京都什門懇話会開催。妙満寺で法味言上の後、法華宗大本山本能寺宝物館他拝観、市内宿舎に会場を移し親睦を図った。

◇11月24日、東部連合会主催僧員講習会開催。山口祐光師を講師にお招きし、「ターミナルケア」について御講義頂いた。

◇11月30日、東京天妙國寺に於いて、宗門主催東部地区僧員講習会・12月6日京都妙満寺に於いて西部地区僧員講習会開催。いずれも立正大学日蓮教学研究員、西片元証師より「葬儀について」御講義頂いた。寺院と檀家の葬儀の係わり合い等、21世紀に向けての問題提起があり、大変勉強になった。

（多門顕正）

法華宗真門流

◇第一、二、三種講習会開催。8月23日より29日まで、総本山本隆寺に於て30余名が受講し、講義、法要式の実習が続けられた。

◇北海道支学林が8月24日より30日まで開講された。

◇8月26日総本山本隆寺にて寺宝、什物の虫払い会展覧法要を開催。

◇9月4日第一教区では、武田薬品技術研究室主任竹崎昌子先生を講師に迎え「秋の文化講演会」を開催。

◇9月5日第二教区では、林日圓猊下を講師に、「教学講習会」を開催。

◇9月5日新内局発足。宗務総長に齋藤隆彦師〔武生市圓明寺住職〕が選定され、斉藤総長は以下のとおり内局員を選任した。総務部長上田浩岳師〔京都市是好院住職〕教学部長辻本寛孝師〔奈良市寛照寺住職〕教化部長水野智啓師〔姫路市法連寺住職〕社会部長木村完祥師〔東大阪市法圓寺住職〕財務部長長堀智泰師〔鯖江市盛隆寺住職〕

◇9月15日、吉田日襄猊下、総本山本隆寺第百二世として晋山。並びに法華宗真門流管長就任。

◇10月12・13日総本山本隆寺御会式奉修。

◇10月13日初転法挙行。本年は二名が初転法輪に臨む。〔新城市妙躰寺弟子〕辻本堅固師、〔福井県越廼村本性寺住職〕吉田妙光師。

◇11月1・12日・12月7日立教開宗七五〇慶讃委員会開催。

◇平成11年度定期宗会開催。

（堀内浩善）

るつうぶん 流通文 るつうぶん

＊「文殊師利、是の法華経は無量の国の中に於て、乃至名字をも聞くことを得べからず」と経文に説かれている。法華経はそれだけ尊いものだ。毎日お題目を唱えていると、ともすれば惰性で唱えていることがなきにしもあらずである。＊「法の華三法行」と称する教団の悪質な行為が新聞で報道されたが、実体はどうだろうか。そんな宗教法人がこともあろうに「法の華」を冠する名をつけた。「法の華」が、相手を信用させてだますにいい名だと思ったのかもしれないが、使われたほうはいい迷惑だ。それどころでない。無上最尊の名を平気で使っているのは、法華信仰者の怠慢でなかろうかと恐れる。法華魂が世に知られていないのだ。法華信者が、自ら内にどれだけ法華魂を形成しているかだ。「一寸の虫にも五分の魂あり」という。法華信者に法華魂がなくてどうするのか。＊祖師を信じたら、どこか一部分は祖師に似なければならぬ。それは「不惜身命」の実行だ。（田）

お願い

「門連だより」継続発展のため、
各派のご協力を切にお願いします。
本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せください。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会

日蓮聖人門下連合会

●目的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会